

大沢 季子

1	昭和二十年	三月二十三日	二十年	七月	四日	久米川、福光	一部五年
2	二十年	七月	五日	二十年	十月	六日	福光
3	二十年	十月	七日	二十年	十二月二十三日	福光	一部五年
紛失	二十年	十二月二十四日				福光	一部五年

私の家は株屋（証券会社）をやっていた。住み込みの店員さんや女中さんなど手が揃っている中で充分に我が儘に育っていたから、いきなりシートも自分で洗う生活に飛び込み（しかも川で）、晴天の霹靂とはこのことであった。

疎開には途中から参加した。心配した家族と親戚がぞろぞろ送ってきて、愛情と食料に飢えていた集団からは当然好奇の目が集中し、いじめの対象となって、新参者は非常に肩身の狭い思いをした。絵日記は全部で四冊あった筈なのだが最後の一冊はいつの間にか行方不明になってしまっている。

昭和六十三年八月記す

美川 季子